

～ひだまり～

第2学年だより

第33号

2年3組 学級目標

百花繚乱

～1人1人の個性の花を咲かせよう～

作文特集号「移動教室」～3組～

ここまで、十人十色な作文を紹介してきましたが、今回の3組号をもちまして、一区切りとなります。最後を飾る素敵な2作品を、是非お読みください。

「中学生での移動教室」

3組 KD

中学生になってから初めての宿泊行事で、僕は、不安が多くありました。小学生の頃とは違う、中学生としてのものだったので、緊張もありましたが、行ってみれば不安なんてない、いつも通りのような生活ができました。そのような生活ができたのは、2年生のみんなが、時間に気を付け、中学生としての自覚をもった行動ができている人が多かったので、規則正しい生活ができたのだと思います。僕は、中学生としての自覚が、1年生の時よりも成長していると感じました。

そして、初めて体験先に行って家業体験をさせてもらい、多くの新しい経験ができました。家業体験に行くまで、どう話せばいいかとか、マイナスな事をいろいろと考えていたけれど、バスを降りた時から体験先の人がしゃべりかけてくれて、行ってからもずっとしゃべりかけてくれるので、徐々に心が開けていって、とても楽しく、最後には笑顔で別れることができ、改めて体験先の人への優しさ、体験させてもらったことへの感謝が止まりませんでした。初めてのことを体験するということと一緒に、農家さんの仕事の楽しさと、大変さが分かりました。とても良い体験でした。

2日目の夜は、初めてキャンプファイヤーをして、火の美しさに驚きました。火を見るだけなのか、なんて思っていたけれど、何も考えないで見ていられて気分がよかったです。火を見て、最後の夜ということを実感し、最後の日に向けて気持ちが高まりました。

3日目は飯盒炊爨をして、班のみんなと協力してカレーをつくりました。楽しい気持ちで終わられて、最高でした。

中学生としての宿泊行事は、思っていた生活とは程遠く、楽しいものでした。良い気持ちで終わられて、とても良かったです。

「活かすこと」

3組 CY

今回の移動教室は、中学校生活半分の締め括りの時だった。でも、全く実感が湧かなかった。なんだかとても早いと思いつつも、少し不思議な気持ちのまま、みなかみの町に着いた。

自分の中での思い出にキャンプファイヤーがある。全員で周りを囲み、火の神と火の子が火を付け、燃え上がる瞬間。自分がその時何を考え、何を思ったのか。一括りでは言う事ができないが、きっと移動教室「最後の夜」というのもあり、昨日の事や、今日の事を回想したり、正反対に普段の事、今日までの人生が走馬灯のように何もかも思い出された時だった。そしてその煙の先を見据えた時、この煙が風に乗る、どこまで続くのか分からない、が、きっと自分が届いて欲しいと思う所まで続くと思えた自分がいた。キャンプファイヤーの炎と火の粉と煙。そして実行委員やレク係の方々の話。それらが合わさって初めて自分の中で「感動」という気持ちが完成した。色々な企画を考え、楽しませてくれた実行委員の方々にもう一度感謝を伝えたいと思った。

そして、もう一つの思い出に家業体験がある。人生で初めての経験で、どんな人会うのか、何をするのか。何一つ想像することができなかった。自分が一番不安だったのは、体験先の方とコミュニケーションを取り、会話をすることができるのか。正直、自分は苦手な方だ。でも、地域の人達との交流は普段経験することができないからこそ、会話をほとんどしないで終わってしまったら、探究学習にもならなければ自分自身ずっと悔いが残るようになってしまう。だから今回は沢山とまでいなくても、とにかく会話ができるようにしようと思った。そのためには最初の自己紹介が何よりも大切だと思った。そこから、色々会話を広げていければいいなと思い、いざ行ってみるとやはり緊張した。それでも体験先の方がみなかみ町の事を話してくださったり、学校含め江戸川区の事を質問してくださったりして、会話を広げて話をする事ができた。少しだけかもしれないが、自分にとっては成長できたと感じられた時で、今後も活かしていきたいと思う。

移動教室で経験した事、学んだ事、感じた事はもちろん沢山あるし、自分自身で頑張ったと思える部分や、もう少しだったなと思う部分もあった。2泊3日という短い時間の移動教室であった事とは思えないくらい、沢山の想いや気持ちがあったのだと改めて思う。中学校生活の残り半分を、どのように生活していくか、もう一度考えようと思う。

【担任の先生から】移動教室は中学校生活の重要な節目です。この大きな山を乗り越えたことで、確実に大人になっていくのです。皆さんの作文にも、今までとは違う大人らしさを感じられました。